

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	4 学年
使用教科書	桐原書店『探求 現代の国語』				
副教材等	第一学習社『新訂総合国語便覧』、Z会『現代文キーワード読解』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) ことばが持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

大学進学を想定している生徒が大多数を占めることから、

- ① 基本的な言語事項について、表現方法や文脈を踏まえた活用ができる正確な習得を目指します。
- ② 文章を的確に理解した上で、根拠を含む論理性を備えた思考力を身につけることを目指します。
- ③ 自分の思考を的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
- ④ 発展的な知識教養にも触れ、自発的に見識を深める姿勢の習得を目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	〈知〉のコミュニケーションへ	3 「B 書くこと」	最果タヒ 「わからないぐらいがちょうどいい」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 読解を通して、言葉のもつ力や働きについて考える。 「わからないぐらいがちょうどいい」という主題について、自分に照らし合わせながら考える。 	b a c	授業観察 発問評価 課題点検
5	体験と思索Ⅰ	7 「A 話すこと・聞くこと」	河合隼雄 「ふしぎと人生」 「読書は必要か？」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 筆者の捉え方に対する自分の考えをまとめ、スピーチする。 	b c	授業観察 発問評価 課題点検
6	評論Ⅰ	7 「B 書くこと」	佐藤卓「ほどほどのデザイン」 大岡信「言葉の力」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 「日本のデザイン」を海外の人に紹介する資料を作成し、そのデザインの優れた点を発表する。 言葉というものの本質を理解する。 	b c a	授業観察 課題点検 定期考査
7	評論Ⅱ	7 「B 書くこと」	山崎正和 「サイボーグとクローン人間」 外山滋比古 「読む」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 科学技術の発展が人間の考え方に影響を及ぼした例を文章にまとめる。 「読む」という行為のさまざまな意味を理解する。 	b c a	授業観察 発問評価 課題点検
8	実社会Ⅰ	3 「A 話すこと・聞くこと」	上野千鶴子 「問いの立て方とオリジナリティ」	<ul style="list-style-type: none"> 研究における問いの立て方について理解する。 	a	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
9	評論Ⅲ	8 「A 話すこと・聞くこと」	岩井克人 「経済の論理／環境の倫理」 若林幹夫「遅れてきた『私』」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 地球温暖化をめぐる最新の世界情勢を調べ、資料を示して討論する。 「私」が他の誰かとのつながりの中にあることを理解する。 	b c a	授業観察 発問評価 課題点検
10	体験と思索Ⅱ	7 「B 書くこと」	星野道夫 「アリュシャン、老兵の夢と闇」 長田弘「レオーノフの帽子屋」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 筆者の姿勢を参考に、戦争についてレポートにまとめる。 「生きるという手仕事」という人生の捉え方を理解する。 	b c a	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査

11	評論Ⅳ	8 「C 読む こと」	湯澤規子 「食の履歴 書」 鷲田 清一「わか ろうとする 姿勢」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 近代から現代に至る食の風景について調べ、発表する。 「わかる」ことの意味を理解する。 	b c a	授業観察 発問評価 課題点検
	実社会Ⅱ	2 「B 書く こと」	伊藤亜紗 「目の見え ない人は世 界をどう見 ているのか」	<ul style="list-style-type: none"> 見えない人の空間の認知の仕方について考え、レポートにまとめる。 	b	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
1	評論Ⅴ	8 「C 読む こと」	船木亨「AI の判断」 高田明典 「言葉を学 ぶとは—— 『言語ゲー ム』の概念	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 「人だからこそ果たせる役割」について考え、話し合う。 「言語ゲーム」における言語の意味を理解する。 	b c a	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
	2	評論Ⅵ	4 「B 書く こと」	内田樹「歴史は『今・ ここ・私』 に向かって はいない	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 身近な出来事が起こった歴史上の時点まで遡って、考察する。 	b c
3		4 「C 読む こと」	井崎正敏 「思想の出 自」	<ul style="list-style-type: none"> 本文に述べられた内容を的確に理解し、筆者の考え方を読み取る。 「思い」と「言語」の関係について理解する。 	b a	授業観察 発問評価 課題点検
	実社会Ⅲ	2 「A 話す こと・聞く こと」	大竹文雄 「納税は義 務か」	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容をふまえて、今後の日本社会をよりよいものにするためどのような施策が必要かを話し合う。 	b	授業観察 発問評価 課題点検

計70時間 (50分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20時間	B「書くこと」 30時間	C「読むこと」 20時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

6 課題・提出物等

- 家庭学習用の課題を適宜指示します。
- 各単元の特性に応じた、発表やレポート作成等の時間を設定しています。
- 長期休業中の課題について別途指示します。

7 担当者からの一言

「現代の国語」は、「話す・聞く」、「書く」、「読む」など様々な活動を通して、知識だけでなく、論理的読解力や思考力、表現技法等を身につける科目です。すべての教科の基礎となる科目です。自分のものになるよう、積極的に授業に臨んでください。

(担当：原)